

### 03 つぎお きぬよ 藤元次男さん・絹代さん 長野県から1ターンの歴8ヵ月

「いいんじゃない、のんびりやったら」と二人の子どもたちもこの町での暮らしを応援してくれたという次男さん(57)。「急斜面での山仕事は予想以上にきつい。けどストレスがなくてとってもいい」と、森林組合の作業を終えて風呂上がり一杯を楽しむ。「荒沢口の人はいつでも声を掛けてくれる。いいところに来た」と、地域の集まりにも常に顔を出す。「毎日が旅先の景色を眺めている感覚で大好き」とご満悦の絹代さん(54)は訪問介護の仕事を始めただけ。「移住する人は、最初にしっかり仕事を見つけて」とアドバイス。「寒さ対策の整った住宅を！」と町の支援を強く望む二人は、「ここがいつのすみか」と口をそろえた。



次男さん手作りのテーブルとベンチで「今日も一日お疲れ様」とくつろぐ二人

予想以上にきついけど  
ストレスのない山仕事

## ターン

### 01 たかゆき かよ 大石孝之さん・佳世さん 神奈川県と大阪府から1ターンの歴17年

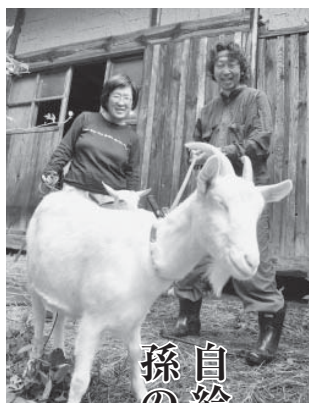


前列左から葉月さん(葛巻中二年)葉介君(葛巻小四年)稚葉さん(同六年)と後列は孝之さんと佳世さん

葛巻でもらったご恩は  
一生かかって返したい

思わず目を疑いそうな絶好のロケーション。小屋瀬廻立地区。緑のジュウタンの中にたたずむログハウスに獣医師の大石孝之さん(49)一家は暮らす。昨年、慣れ親しんだ茶屋場地区から念願のマイホームに。「葛巻の人は温かい。仲間意識が強く、いつも親身になってくれる。このご恩は一生かけて返します」ときっぱり。佳世さん(39)が保育園の仕事を終えて帰宅すると、雑草だらけの畑がすっきりきれいに。助けてくれる近所の皆さんに「ありがとう」と素直に感謝している。この夏、大阪から訪ねて来る佳世さんの父とまき割りをする日が待ち遠しい孝之さんだ。

### 04 としゆき さちこ 石井利行さん・幸子さん 東京都から1ターンの歴3年



「やっと正真正銘の葛巻町民になりました。よろしくね」と晴々語る石井幸子さん(52)。3年前に吉ヶ沢に移り住んでいた夫・利行さん(57)と長女綾子さん(21)のもとへ、東京の2女が二十歳を迎えたのを機に、転入届を済ませた。農業とは無縁だった幸子さんは、子育てを通じて「安全とは何か」と考えるようになった。そしてたどり着いた自給自足の暮らし。「夫は動物、私は畑の担当。お互いに口は出さない」のが石井家の約束。育てた野菜は食卓に並び残さず加工。幸子さんの手にかかれば多彩なメニューや保存食へと変身する。先頃、産直ハウスほすなあるの副理事長に就任した利行さんは、首都圏に暮らす町出身者ふさと会の皆さんに葛巻の旬を「ふさとボックス」として届けたい考えた。一方、幸子さんは「孫に田舎を準備しておきたい」と夢に向かって着々と進行中。

自給自足の暮らし続け  
孫の田舎を準備したい

### 02 ひでなが ゆうこ 亀山秀長さん・勇子さん 東京都から1・Uターンの歴13年

「自分がつくった野菜や果物を喜んでくれる人の顔が見えるって、本当に幸せですよ」。生まれも育ちも東京の亀山秀長さん(64)は都内の銀行を退職し星野にある妻・勇子さん(53)の実家で農業という未知の世界に飛び込んだ。母親や周囲の猛反対を受けたが51歳で農業デビューし早13年。めきめき腕をみがき、町の農産物共進会花きの部では金賞の常連。遅咲きの亀山さんは「今でも皆さんに教わっています」と謙虚ながらも持ち前の研究熱心で園芸振興のトップランナーになった。友人やかつての同僚に花や新鮮野菜の宅配に大忙し。口コミで広がった顧客は100人以上。「観光農園もできれば」と夫妻の夢は広がる。



田舎暮らし大ベテラン  
葛巻から新鮮野菜直送

無我夢中の13年を振り返り「これからはゆとりを持ちたいね」と亀山さん夫妻



### U・Iターンの歴1年4ヵ月 合原武さん由佳さん

あいほら・たけし ゆか  
盛岡市出身の武さんと田野出身の由佳さん。平成12年4月に結婚。一男二女をもうけ昨年3月に由佳さんの実家に帰郷。武さんは整備士として永年勤めた盛岡市内の自動車会社を退職して九戸村の岩手県北クリーン(株)に勤務。由佳さんは看護師。県立中央病院から一戸病院に転勤。(田野在住)

やっぱり生まれ育った葛巻はいい  
5人から一気に2倍の大家族だよ

現在、四世代九人家族。田野の合原實榮さんは一年と少し前までは大人五人で暮らしていた。そこへ降ってわいたような朗報が飛び込んだ。「家族五人で葛巻に帰る」昨年三月、娘の由佳さんが長女・初音ちゃん、二女・愛乃ちゃん、長男の和利くんと四人で実家に戻ってきた。仕事の関係で夫の武さんは一足遅れて五月、晴れて町民に。五十九歳から九十九歳まで大人五人家族が、なんと五世代十人と一気に倍の大家族となった。百歳目前のハチエおばあちゃんは、玄孫の三人を迎えて安心したかのよう。その三ヵ月後に天寿を全うした。「馬淵川で釣りをしている風景、なんだかほっとする」と武さん。「やはり生まれ育った葛巻は落ち着く」と由佳さん。二人とも葛巻暮らしを気に入っているようだ。長女と二女は葛巻小学校へ。「歩いて通わせたかった」という由佳さん自身は統合前の田野小学校卒業。約二キロの道のりを歩いて通学したものだ。「私たち全校生徒三十二人で

複式学級でしたよ。今はこの地区で娘たちを含めても十人。統合もやむを得ないこと」としながらも、せがむ子どもたちに校歌を教えることができないと苦笑する。

以前住んでいた盛岡市ではイベントなどに参加する機会はありませんでしたという子どもたち。自然を満喫する暮らしに次第に目覚めはじめ、最初のうちはバスがないからとあきらめムードが一変し「連れて行ってちょうだい」と主張するようになったと成長に目を見張る武さん。親としてできる限り応援するつもりだ。

「地域や子どもを通じた親同士の交流が盛んでいいね。葛巻ならはだね」と目を見合わせる武さんと由佳さんは、「跡継ぎだからいずれば」と思っていました。と、早々の決断に悔いはない。「こはんですよ。お風呂ですよ」と声を掛けてもらうことが楽しみというトシさんと「ひ孫はわが家の宝物」としみじみと語る喜一郎さん。家族全員が子どもたちの一挙手一投足を喜ぶ。不規則な仕事をこなす由佳さんに替わって孫の世話と大家族の食事の準備に追われる母・ゆり子さんだが、「来てくれてありがとう」と同居を人一倍喜ぶ。